

「 公共 」 シラバス

学科	商業科	学年	2 年	類型		組	5 組	単位数	2
使用教科書	高等学校 改訂版 公共（第一学習社）								
副教材等	最新図説公共（浜島書店）、公共ワークブック（愛媛県高教研地歴・公民部会）								

1 学習の到達目標

① 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりするための知識や技能を習得する。 ② 授業での学習や探究活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
--

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により評価をする。学年末において、観点別評価を5段階の評定に総括する。

知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができたか。	(1)(2)(5)(6)
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うことができたか。	(3)(4)(5)(6)
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めることができたか。	(3)(4)(5)(6)
評価方法	主な評価項目	
ペーパーテスト	(1)定期考査 (2)小テスト	
学習状況の観察	(3)毎時間の授業への取組、社会の諸課題や政治・経済に関する興味・関心	
発表	(4)社会の諸課題や政治・経済に関する興味・関心、調査方法、発表資料及び内容	
課題レポート	(5)社会の諸課題や政治・経済に関する興味・関心、調査方法、表現方法	
ノート	(6)学習内容の効果的なまとめ	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち Ⅰ 公共的な空間と人間とのかかわり Ⅱ 社会に参画する自立した主体として 第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方 Ⅰ 人間としての在り方生き方についての探究 Ⅱ 選択・判断の手掛かりとなる倫理的価値 第3章 公共的な空間における基本的原理 Ⅰ 自立した主体となることに向けて Ⅱ よりよい公共的な空間づくりを目指して	・伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解し、考察を深める。また、当事者として国家・社会などの公共的な空間をつくる存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する技能を身に付ける。	(4) (5)
二 学 期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 主題1 法や規範の意義と役割 主題2 契約と消費者の権利・責任 主題3 司法参加の意義 第2章 政治的な主体となる私たち 主題4 政治参加と公正な世論の形成 主題5 国際社会と国家主権 主題6 日本の安全保障と防衛 主題7 国際社会の変化と日本の役割 第3章 経済的な主体となる私たち 主題8 雇用と労働問題 主題9 社会の変化と職業観	・民主主義とその合意形成における過程や公正かつ自由な経済活動によって、国民福祉の向上が図られていることなどを理解する。また、それらを現代社会の諸課題と関連付けながら、多面的・多角的に考察し、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	(4) (4) (5)
三 学 期	主題10 市場経済の機能と限界 主題11 金融の働き 主題12 財政の役割と社会保障 主題13 経済のグローバル化 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ケーススタディ	・持続可能な社会やよりよい国家づくり、平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、そのために必要な事柄を多面的・多角的に考察する。さらに、それらの課題の解決に向けて、事実を基に協働して考え、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述する技能を身に付ける。	(4)(5)

備考 (1)(2)(3)(6)については、全ての単元において評価項目として用いる。